



Title	イギリス帝国主義下のタイ国半植民地におけるチーク材の伐採搬出行程とその生産・輸出状況(資料)(林学科)
Author(s)	篠原, 武夫
Citation	琉球大学農学部学術報告 = The Science Bulletin of the Faculty of Agriculture. University of the Ryukyus(23): 385-391
Issue Date	1976-12-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/4313">http://hdl.handle.net/20.500.12000/4313</a>
Rights	

# イギリス帝国主義下のタイ国半植民地におけるチーク材の伐採搬出行程とその生産・輸出状況（資料）

篠原武夫\*

---

Takeo SHINOHARA : On the Logging Process of *Tectona grandis* and the Situation of its Production and Export in the Thailand half colonized under Occupation by British Imperialism

---

## I チーク材の伐採搬出過程

チーク材の伐採搬出行程は①伐木から川土場までと、②川土場から終着地の木材市場までの2行程に大きく分けることができる。具体的に述べると、伐採木の選定→巻枯し→伐木（主として鋸）→造材→搬出→（小土場→中土場→川土場）→流送（管流→筏流）→木材集散地（パクナムポー）→木材市場（主としてバンコック）に到達という行程をたどっている。

伐採木の選定および巻枯しは乾燥期中に山林局の巻枯し官（Girdling Clerk）によってなされ、その費用は借林権者が負担する。伐木作業以下は会社または下請人によってなされた。伐採搬出の労働者は以前はほとんどカムー人（Khamu）（仏領印度支那の山地民）であったが、その後は地元のラオ人（Lao）、シャン人（Shan）、カレン人（Karen）等がそれに多く従事した。

巻枯しをしたチークは伐倒までに2～3年を要し、伐倒に際しては流送上の便も考えて5、6月に行なわれた。チークは元来林内に散在して生育しているため伐倒造材された材は広く林内に点在し、その搬出は容易ではなかった。

土侯時代の搬出には主として象や水牛が使用されていたのであるが、1855年の英泰条約による商品経済の全国的波及によって外国資本による国内交通路の発展がもたらされ、北部タイまで近代的鉄道網が敷設されるに至り、チーク材の搬出にも丸太運搬鉄道の敷設で機関車等が使用されるようになった。この機械による搬出方法はこれまでの搬出方法に一大転機をもたらし、チーク丸太の搬出に重要な役目を果たしたのである。

Anglo Siam 会社（イギリス）の所有軌道は最も発達している。この会社は丸太運搬鉄道を北部タイのランパーン区分であるパヤオメチャン借林区域に険路を通じて全長491哩の軌道を敷設し、丸太索引の7箇の蒸気機関車を用意して終点のメコン河まで運ぶことにしたのである。Compagnie Est-Asiatique Francaise 会社（フランス）はプラエ区分の借林区域に全長11哩の軌道を敷設したのであるが、その積材車はもっぱら象の索引力を利用した。Borneo Company 会社（イギリス）はチェンマイ区分のムアンファン地方の険路に長さ312哩の軌道を敷き、この会社も象の索引力を利用して積材車を引かせている。軌道の終点からは急峻な斜面に滑材路を設け、丸太をすべりおろした。Bombay

---

\* 琉球大学農学部林学科

Burma 会社 (イギリス) はランパーン区分の借林地区域に運搬軌道を敷設し、Leonowens 会社 (イギリス) はチーク特許区域で、チーク丸太を引張るためのカタピラトラクターを使用した。Dänische Ostasien-Gesellschaft 会社 (デンマーク) は東部メー・ヨム森林においてメー・サイからメー・ヨム東岸にいたる間に狭軌の鉄道を敷設した。1939年にチーク伐採および搬出に費された労働条件を述べると第1表に示す通りである。

第1表 チーク生産搬出労働条件 (1939年)

森林地域別	労働者数(人)	象数(頭)	トラック数(台)	伐採数(本)	丸太生産量(m <sup>3</sup> )
メーサレン	22	13	3	—	903
ラムパーン	1,201	322	324	25,518	46,347
チェンマイ	966	301	26	21,593	36,564
チェンライ	180	33	10	10,040	26,890
プレー	574	134	86	8,572	16,934
ラヘン	557	223	44	6,275	14,150
ピサヌローン	283	94	15	5,761	9,844
計	3,799	1,120	508	84,119	151,432

注：宮原武雄・南方経済資源総覧第5巻 (タイの経済資源)，245頁より転記。

ところで象や森林鉄道等で川土場に集材された材は雨季に管流され3～5年を経過して筏組の場所に到達する。筏流しされたチーク材は3カ月～半年位で目的地のバンコックに達するが、その途中タイ国第1の木材集散地であるパクナムポーに集められる。そこから海外などに送られる。チーク材が伐採地からバンコックに到達するには順調にいった5～6年、悪い場合には10年かかるとされている。巻枯してから市場に出るまでには通常第2表に示す経過をたどっている。

第2表 チーク材伐採搬出流送経過年

作業行程	経過年
① 巻枯し	2年 (2～3年)
② 伐木～川土場	1年
③ 管流	4年 (3～5年)
④ 筏流	半年
計	約8年

注：会田貞助・南方の木材，63頁より転記。

前述したようにチーク材の搬出過程に大資本による鉄道が敷設されることにより、資本主義化された合理的なチーク材経営が促進され、そのことにより弱小資本の国内資本 (土着資本) は多大な打撃を受けたことと思われる。

## II チーク材の生産状況

1896～1926年の過去30カ年にわたって3河川 (メナム、サルウィン、メコン) から流送されたチーク材本数 (第3表) は、3河川を合わせると3,459,924本で、そのうちメナム河の2,789,511本が最も多く、全流送材の約81%を占めている。さらに、年平均流送材を各河川別にみると、メナム河からは

92,984 本、サルウィン河からは 18,827 本、メコン河からは 3,354 本である。

第3表 北部タイチーク丸太年別搬出本数（1896～1926年）

年次	メナムからパ クナムポーお よびバンコッ クヘ	サルウィン からカドお よびモール メン（ビル マ）へ	メコンか らサイゴ ンへ	年次	メナムからパ クナムポーお よびバンコッ クヘ	サルウィン からカドお よびモール メン（ビル マ）へ	メコンか らサイゴ ンへ
1896-97	67,932	48,882	-	1913-14	104,897	12,386	5,037
97-98		31,698	-	14-15	60,397	10,147	1,969
98-99		17,018	-	15-16	76,126	13,709	4,946
99-00	78,880	16,627	-	16-17	87,142	10,609	4,482
1900-01	118,691	31,645	-	17-18	105,081	16,590	5,061
01-02	75,876	22,015	-	18-19	87,988	20,763	7,109
02-03	91,315	26,671	-	19-20	89,449	16,548	7,445
03-04	107,967	11,352	-	20-21	102,715	19,387	7,044
04-05	135,140	14,143	-	21-22	76,476	22,396	8,183
05-06	146,753	14,336	-	22-23	77,544	18,975	7,726
06-07	86,304	7,052	-	23-24	100,850	25,575	14,503
07-08	108,406	16,562	-	24-25	96,084	13,340	6,948
08-09	121,367	24,360	-	25-26	96,448	16,950	4,997
09-10	99,371	22,559	-	(30年)	2,789,511	564,808	100,005
10-11	107,802	22,276	-	総計			
11-12	94,549	12,165	291	年平均	92,984	18,827	3,354
12-13	80,502	13,076	4,864				

注：台湾総督官房調査課編・暹羅の森林，84～86頁より作成。

過去15年間にメナム河、サルウィン河およびメコン河を流搬した各丸太平均測定材積を示すと第4表の通りである。但し、サルウィン河の数値は過去2カ年の平均である。

第4表 各河川流下チーク材平均材積

搬出水路名	丸太1本当り平均材積	
	立方呎	立方米
メナム河	74.70	2.11
サルウィン河	47.34	1.34
メコン河	91.28	2.58

注：台湾総督官房調査課編・暹羅の森林，87頁より転記。

第4表に基づいて第3表のチーク材搬出材積を計算すると、第5表のようになる。

第5表 搬出本数および材積 (1896~1926)

搬出水路	搬出本数	搬出材積	
		立方トン	立方米
メナム河	2,789,511	4,167,530	5,798,382
サルウィン河	564,808	534,761	744,024
メコン河	100,605	183,667	255,261
計	3,454,924	4,885,958	6,797,667

注：台湾総督官房調査課編，暹羅の森林，88頁より作成。

さらに1926~39年までのチーク丸太年別搬出本数について述べると第6表に示す通りである。3河川からの搬出合計は1,468,817本で，そのうちバンコックへの搬出高が，1,192,270本となり，全本数の約81%を占めている。これらの本数を第4表の丸太材積から算出して材積を求めると第7表のようになる。

第6表 北部タイチーク丸太年別搬出本数

年 度	メナムからパクナムポー およびバンコックへ	サルウィンからモールメ ン(ビルマ)へ	メコンからサイゴンへ
1926-27	120,186	不明	不明
27-28	140,321	"	"
28-29	140,318	"	"
29-33	不明	"	"
33-34	98,871	11,071	15,603
34-35	106,834	不明	不明
35-36	118,240	"	"
36-37	169,752	37,799	14,600
37-38	171,888	81,084	11,623
38-39	125,860	91,769	11,998
計	1,192,270	221,723	54,824

注：1926~29年は台湾総督官房調査課編・暹羅の森林，86頁，1935~39年は小西干比古・南洋木材資源概要，121頁，1938~39年は松尾弘・泰の経済，152頁，等より作成。

第7表 搬出本数および材積 (1896~1939年)

搬出水路	搬出本数	搬出材積	
		立方トン	立方米
メナム河	1,192,270	1,788,405	2,515,689
サルウィン河	221,723	199,511	297,109
メコン河	54,824	98,683	141,446
計	1,468,817	2,086,639	2,954,244

なお第5表と第7表とを合計して搬出本数および搬出材積を求めると第8表の通りである。この表によってタイ国における1896年の山林局設置以来、1939年までのチーク生産量について、大体のことが把握できると思う。

第8表 搬出本数および材積総計（1896～1939年）

搬出水路	搬出本数	搬出材積	
		立方トン	立方米
メナム河	3,981,781	5,955,935	8,314,071
サルウィン河	786,531	734,312	1,041,133
メコウ河	155,409	282,350	396,707
計	4,923,721	6,972,597	9,751,911

### III チーク材の輸出状況

チークのタイ国輸出品構成における地位は第9表に示すように1933～34年までは米、錫について第3位であった。1934～35年以降はゴム産業におされ、第4位となっている。メナム河を流下してバンコックから輸出されるチークの輸出額について述べると第10表の通りである。

第9表 重要輸出品の地位とその推移比（%）

品目	年次	1913-14	1927-28	1929-30	1931-32	1932-33	1933-34	1934-35	1935-36
米		85.4	72.8	63.3	57.8	61.8	57.6	56.8	57.4
錫		—	8.1	10.3	10.0	9.4	17.0	15.4	14.8
チーク		4.5	3.6	5.5	3.7	2.2	3.0	2.7	3.2
ゴム		0.1	2.3	1.3	0.4	0.2	1.6	5.4	8.3
その他		—	13.2	20.0	28.1	26.4	20.8	19.7	16.3
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注：小西干比古・南洋材資源概要、130頁より転記。

つぎに河川から流送されたチーク材の輸出量についてみると第11表の通りである。この表から生産されたチーク材の平均約50%が海外に輸出され、残りの50%が国内消費に向けられていることがわかる。この表の輸出量のうちバンコックからの輸出量は第12表の通りである。バンコックからの輸出量は年平均輸出量（第11表）約50%のうち約24%も占めている。第13表はバンコックから輸出されるチーク材の1909～40年までの輸出数量と価額について示したものである。

第10表 チークの輸出額 (バード)

年 度	総 輸 出 額	チ ー ク 輸 出 額	総輸出額に対する比 (%)
1920-21	90,499,501	12,349,720	13.65
21-22	183,620,381	7,111,071	3.87
22-23	70,459,164	5,678,789	3.33
23-24	201,522,242	6,196,597	3.07
24-25	203,079,862	6,702,015	3.30
25-26	244,731,247	5,626,661	2.30
26-27	289,265,988	8,218,583	2.43
27-28	276,269,363	9,947,249	3.60
28-29	252,474,584	11,241,864	4.45
29-30	219,772,893	11,218,773	5.10
30-31	161,518,891	9,738,284	6.03
31-32	134,206,840	4,950,173	3.69
32-33	152,522,494	3,312,029	2.17
33-34	144,099,014	4,274,479	2.97
34-35	172,594,870	4,588,808	2.66
以上15カ年平均	152,984,421	5,372,754	3.51
1935-36	158,218,322	5,052,217	3.19
36-37	184,361,153	8,651,790	4.70
37-38	164,492,804	9,112,126	5.37

注：高山慶太郎・チークの話，100頁より転記。

第11表 3河川チーク材生産および輸出

単位：m<sup>3</sup>

年 度	生 産 量	輸 出 量	比率 (%)	国内残高	比率 (%)
1934-35	280,795	160,382	57.1	120,413	42.9
35-36	416,375	152,192	37.5	260,183	62.5
36-37	320,644	164,272	51.2	156,372	48.8
37-38	357,812	183,167	51.1	174,645	48.9

注：森三郎・南方の木材林業，219頁より転記。

第12表 バンコックからの輸出量

単位：m<sup>3</sup>

年 度	生 産 量	輸 出 量	生産に対する輸出比 (%)
1934-35	280,795	63,934	22.7
35-36	416,375	63,051	15.1
36-37	320,644	100,128	31.2
37-38	357,812	94,357	26.3

注：森三郎・南方の木材林業，218頁より転記。

第13表 チーク材輸出（数量および価額）

年 度	数量（トン）	価額（バード）	年 度	数量（トン）	価額（バード）
1909 - 10	76,090	6,975,057	1925 - 26	42,849	5,636,761
10 - 11	89,165	7,624,092	26 - 27	59,337	8,218,583
11 - 12	75,082	6,112,097	27 - 28	70,228	9,947,249
12 - 13	60,854	5,600,282	28 - 29	76,865	11,241,864
13 - 14	51,236	5,203,287	29 - 30	74,441	11,218,773
14 - 15	46,921	5,044,459	30 - 31	66,087	9,738,284
15 - 16	47,872	4,911,867	31 - 32	42,946	4,950,173
16 - 17	44,735	5,078,849	32 - 33	37,719	3,312,029
17 - 18	44,825	5,506,368	33 - 34	45,864	4,274,479
18 - 19	36,930	5,597,408	34 - 35	45,161	4,588,808
19 - 20	70,202	13,420,966	35 - 36	44,531	5,252,217
20 - 21	71,616	12,349,720	36 - 37	70,717	8,651,730
21 - 22	59,248	7,111,071	37 - 38	66,416	9,112,126
22 - 23	51,856	5,678,789	38 - 39	58,306	6,694,205
23 - 24	58,278	6,196,597	39 - 40	88,796	7,885,209
24 - 25	58,284	6,696,015			

注：1909～36年は満鉄東亜経済局編（代表者・中島宗一）・南洋叢書第4巻（シャム），328頁，  
1936～40年は飯本信之・佐藤弘・南洋地理大系（タイ，仏印），110頁より作成。

## 参 考 文 献

1. 会田貞助 1951 南方の木材，東京丸善株式会社
2. 飯本信之・佐藤弘 1942 南洋地理大系（タイ・仏印）3，東京，ダイヤモンド社
3. 小西千比古 1942 南洋木材資源概要，東京，南洋経済研究所出版部
4. 満鉄東亜経済調査局編（代表者・中島宗一） 1943 南洋叢書（シャム）4，東京，慶応書房
5. 松尾弘 1943 泰の経済，大阪，朝日新聞社
6. 宮原武雄 1943 南方経済資源総覧（タイの経済資源）5，東京，東亜政経社
7. 森三郎 1944 南方の木材林業，東京，河出書房
8. 高山慶太郎 1943 チークの話，東京，木材経済研究所
9. 台湾総督官房調査課編 1931 暹羅の森林，台北 南洋協会台湾支部